



か ご し ま し
鹿 児 島 市 の

かわ ざかな ず かん
川 魚 図 鑑

松沼 瑞樹
福井 美乃
本村 浩之



鹿児島大学総合研究博物館

序 文

網や釣り竿を持って川へ出かけてみましょう。流れに目をこらしてぱっとひとすくい、ぴくっとひきが来たらすぐに竿をあげてみましょう。さて、どんな魚がとれたでしょうか？

鹿児島市には、甲突川と永田川を代表として、多くの川が流れています。川は、多くの生きものを育み、また海にながれこむことで海の生きものも育みます。鹿児島市の町なかを流れる甲突川や永田川では、ドジョウやナマズ、メダカがみられます。ナマズの子どもは、田んぼで成長します。ドジョウは田んぼや田んぼとつながる水路の泥の中にすんでいます。こういった魚たちは、川とそのまわりの環境が変化すると真っ先に姿を消してしまいます。町なかであるにもかかわらず、ドジョウやメダカたちが見られる川がたくさんあることは、鹿児島市内を流れる川が豊かであるからでしょう。

近年になり、永田川ではタイリクバラタナゴやナイルティラピアが、松本ダム湖ではブルーギルとオオクチバスがみられるようになりました。これらの魚は、もともと日本にはおらず人の手によって海外からもちこまれた魚たちです。これら外来種は、日本にもとからいた生きものと食べ物をめぐって競合したり、交雑したりすることから駆除の対象になることがあります。しかし、ティラピアは食糧難の時代に食用として、オオクチバスは新しい釣り魚となることを期待されて、人間の生活をよくするために持ち込まれた生きものです。川とそこにいる魚を通して、こういった歴史を垣間見ることも出来ます。

この図鑑は、かごしま市民環境会議が長年にわたって行ってきた、鹿児島市内の川や海岸の自然観察会の成果をもとに、鹿児島市の川でみられる魚と、観察会が行われる稲荷川の河口から近い海岸で観察できる海水魚のうち 79 種を紹介しました。本書が読者の皆さんが川や海に親しみをもち、市内にある身近な環境について考えるきっかけになれば幸いです。

川や海の魚たちとの、素敵な出会いがありますように！

2016 年 7 月 7 日

編者を代表して

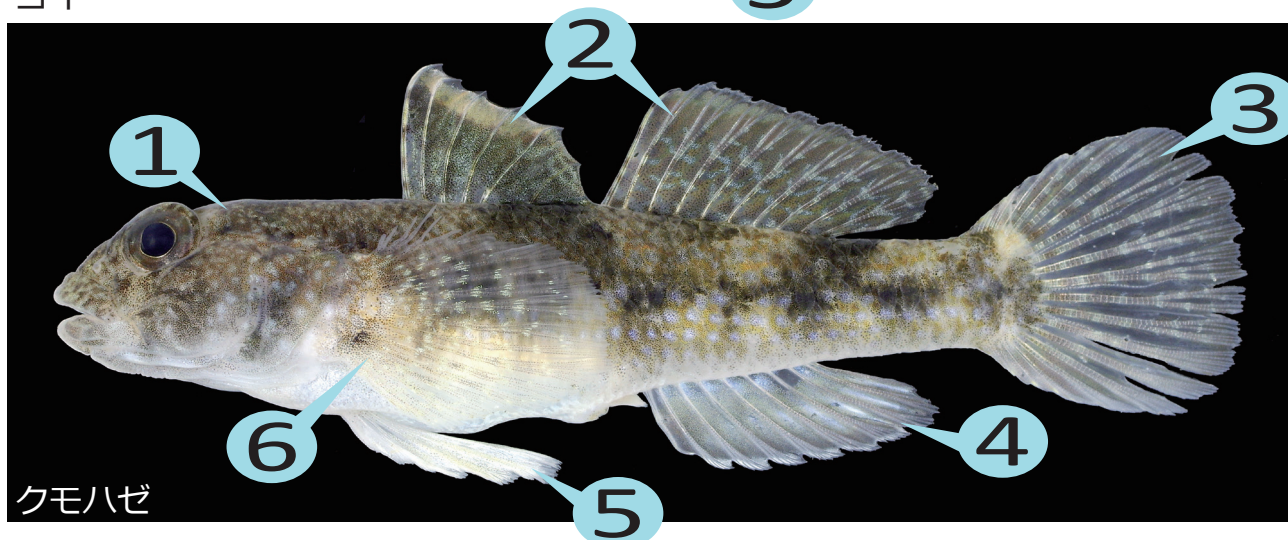
福井美乃

魚のからだ

●^{ひれ} 鰭の名前



コイ



クモハゼ

あたま 1: 頭 せびれ 2: 背鰭 おびれ 3: 尾鰭 しりびれ 4: 臀鰭 はらびれ 5: 腹鰭 むなびれ 6: 胸鰭

●^{おび} 帯もようの名前



オヤビツチャ

おうたい
・横帯 (オヤビツチャ)



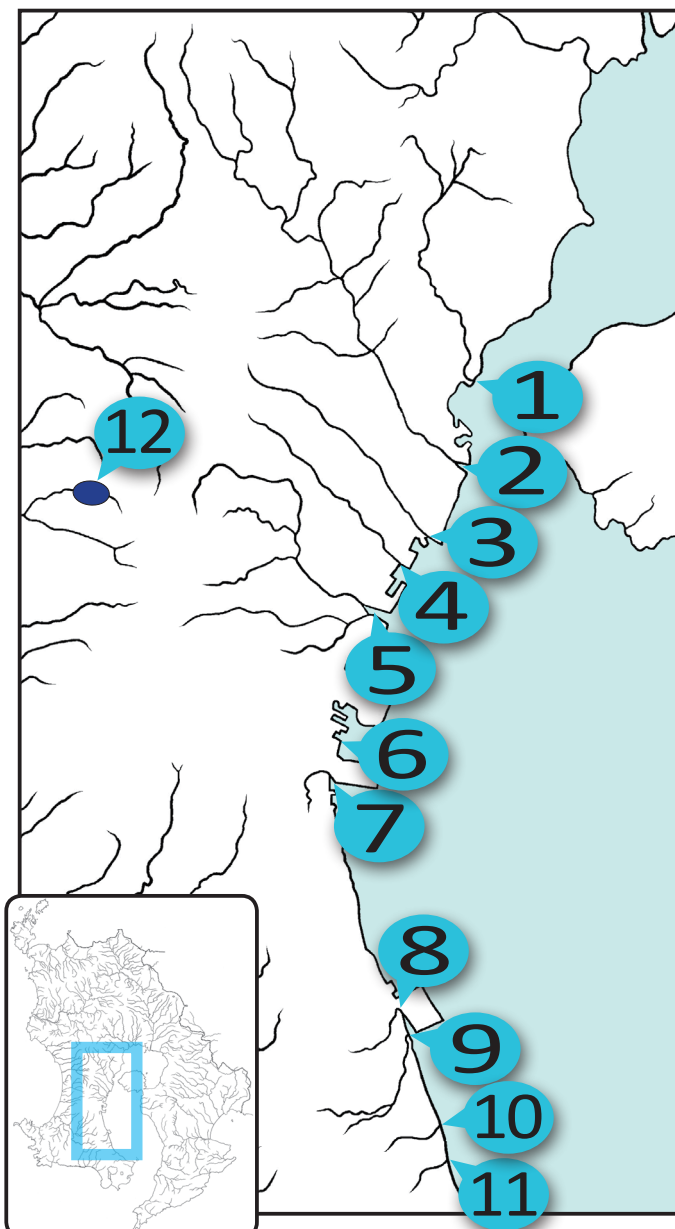
クロホシフエダイ

じゅうたい
・縦帯 (クロホシフエダイ)

鹿児島市内の川でみられる魚と、^{いなり}稲荷川の横の海岸でみられる海の魚^{けいさい}を掲載しました。

- **川**：川魚 **海**：海魚 **外**：^{がいらいしゅ}外来種(人の手によって持ちこまれた生物)
- ^{とくちょう}特徴：魚の色や形の特徴
- ^{ぶんぷ}分布と生態：魚がすんでいる場所や何を食べるかなどの^{せつめい}説明
- メモ：そのほかの^{せつめい}説明
- 鹿児島市の地図：赤丸は魚がみられる場所を示す^{しめ}

鹿児島市の川の名前



- ^{いなり}稲荷川
- ^{こうつき}甲突川
- ^{しん}新川
- ^{わきた}脇田川
- ^{ながた}永田川
- ^{しょうじ}障子川
- ^{ごいの}五位野川
- ^{あたご}愛宕川
- ^{やはた}八幡川
- ^{けそこ}貝底川
- ^{すず}鈴川
- ^{まつもと}松元ダム湖 (^{ながよし}永吉川)

二ホンウナギ 川 海

Anguilla japonica

■ 二ホンウナギ KAUM-I. 39062, 全長 80.9 mm 種子島



■ 二ホンウナギ KAUM-I. 935, 全長 200 mm 鹿児島市 永田川

特徴 体は細長く、粘液でぬるぬるする。全身が茶色で、腹部は白色。

分布と生態 川の河口など下流でよくみられ、石の下などにひそむ。鹿児島市では稲荷川、甲突川、永田川など多くの川の河口や下流で見られる。

メモ おいしい魚で蒲焼などにして食べられ、鹿児島県では養殖が盛んにおこなわれている。体の粘液に弱い毒があるので、二ホンウナギをさわった手で目をこすらないようにしましょう。

鹿児島県には二ホンウナギのほかに、ニューギニアウナギとオオウナギが分布するが、食用にされるのは二ホンウナギがほとんど。

(松沼)





ギンブナ KAUM-I. 253, 体長 120.0 mm 鹿児島市 永田川



ギンブナ KAUM-I. 31545, 体長 101.5 mm 鹿児島市 永田川



ギンブナ KAUM-I. 56882, 体長 38.6 mm 鹿児島市 永田川

特徴 体は高い。大きな背^{せびれ}鰭がひとつある。全身が銀色がかった茶色。大きなものでは 30 cm をこえる。

分布と生態 川の流^{ちゅうりゅう}れがゆるやかな中流や下流^{かりゅう}、池や沼にすむ。田んぼや、田んぼに通じる細い水路でもみられる。鹿児島市では甲突川^{こうつき}、新川^{しん}、脇田川^{わきた}、永田川^{ながた}と、多くの川でみられる。

メモ 日本の川や池でよくみられる代表的な淡水魚。鹿児島県ではあまり食用にされないが、食べられる魚。

永田川では、鱗^{うろこ}が透明な突然変異^{とうぜんへんい}のギンブナがとれた(右下の写真)。赤い鰓^{えら}がすけて見える。

コイとよく似^にているが、ギンブナにはヒゲがない。(松沼)





■ コイ KAUM-I. 19268, 体長 332.3 mm 鹿児島市 松元ダム湖



■ コイ KAUM-I. 21237, 体長 313.6 mm 鹿児島市 松元ダム湖



■ コイ KAUM-I. 56880, 体長 77.0 mm 鹿児島市 永田川

特徴 体は太い。大きな背^{せびれ}鰭がひとつある。鱗はかたく頑^{うろこ}丈。口^{がんじょう}に2本のヒゲをもつ。全身が光沢のある茶色。大きなものでは50 cmくらいになる。

分布と生態 流れがおだやかな川の中流や下流^{ちゅうりゅう かりゅう}、池や沼にすむ。ダム湖でもよくみられる。雑食性でなんでもよく食べる。鹿児島市では^{ざっしょくせい}甲突川^{こうつき}、永田川^{ながた}、松元ダム湖^{まつもと}から記録されている。

メモ 日本全国でみられる代表的な川魚。しかし、日本でみられるコイのほとんどが、人の手によってアジア大陸^{たいりく}からもちこまれたもので、元からそこにすんでいたものではないことが分かっている。日本にもともとすんでいたコイは、琵琶湖^{びわこ}にだけ生息^{せいそく}することが知られている。(松沼)





■ カワムツ KAUM-I. 10736, オス, 体長 145.8 mm 薩摩川内市



■ カワムツ KAUM-I. 31420, メス, 体長 87.7 mm 鹿児島市 松元ダム湖



■ カワムツ KAUM-I. 28026, 体長 69.0 mm 鹿児島市 松元ダム湖



■ カワムツ KAUM-I. 3317, 体長 35.5 mm 鹿児島市 五位野川

特徴 体はやや長く、眼が大きい。体に1本の黒色の帯がある。背鰭は赤みがかり、そのほかの鰭は黄色がかかる。オスはメスよりも長く、大きな臀鰭をもつ。

分布と生態 川の上流から中流にかけて、流れがおだやかなところにすむ。繁殖期（6-7月）のオスは、体が赤みがかり、鰭の黄色みが強くなる。また、頭に追星とよばれる白色のイボのような突起ができる。鹿児島市では甲突川、新川、永田川、障子川、五位野川、松元ダム湖など、多くの川や湖でふつうにみられる。

メモ オイカワとよく似るが、カワムツは体に1本の太い帯をもつことで見分けられる。（松沼）



タカハヤ 川

Phoxinus oxycephalus jouyi

■ タカハヤ KAUM-I. 10564, 体長 71.1 mm 鹿児島市 新川



■ タカハヤ KAUM-I. 28034, 体長 80.0 mm 鹿児島市 松元ダム湖

特徴 体はやや長く、口がややとがる。^{うろこ}鱗はとても小さい。生きてい^{おうど}るときは体が粘液でおおわれ、ぬるぬるする。体は茶色で腹は黄土色。

分布と生態 カワムツやオイカワとくらべて、川の上流^{じょうりゅう}でよくみられ、流れがおだやかなところ^{ざっしよくせい}にすむ。雑食性でなんでも食べる。鹿児島市では、稲荷川^{いなり}、甲突川^{こうつき}、新川^{しん}、永田川^{ながた}の上流^{じょうりゅう}、松元ダム湖^{まつもと}に流れこむ川でみられる。

メ 小さいので食用にはされないが、^{かわい}可愛い川魚。鹿児島県の九州地方^{じゅうりゅう}の川では、上流ではタカハヤ、上流から中流^{じょうりゅう}にかけてオイカワ、中流^{ちゅうりゅう}から下流^{かりゅう}にかけてカワムツと、場所によって、ゆるやかな住み分け^すがされているようだ。(松沼)





■ カマツカ KAUM-I. 6285, 体長 145.9 mm 鹿屋市 肝属川



■ カマツカ KAUM-I. 25236, 体長 129.6 mm 鹿児島市 甲突川



■ カマツカ KAUM-I. 2829, 体長 99.6 mm 川部町 万之瀬川



■ カマツカ KAUM-I. 7337, 体長 59.9 mm 霧島市 天降川

特徴 体は長い。口は下につき、2本のヒゲがある。口のまわりにイボ状の突起がたくさんある。体は茶色。腹は白色で、黒点がたくさんある。背鰭、腹鰭、尾鰭にも黒点がある。

分布と生態 川の上流から中流でみられ、砂底にもぐって小さな虫などを食べる。産卵期は5-6月。鹿児島市では、甲突川のきれいな砂底でみられる。

メモ 砂底で下流側に網をおき、上流側から足で砂をほりおこすように網へ追い立てると採れることがある。ふだんは、砂にもぐっているのど、どこにいるか見つけづらい。

砂底にもぐる生活をするため、きれいな砂地のある川でないとすめない。意外とおいしい魚。(松沼)



タイリクバラタナゴ 川外

Rhodeus ocellatus ocellatus

■ タイリクバラタナゴ KAUM-I. 1693, オス, 体長 49.0 mm 薩摩川内市 川内川



■ タイリクバラタナゴ KAUM-I. 4936, メス, 体長 50.0 mm 出水市 江内川



■ タイリクバラタナゴ KAUM-I. 34013, 体長 32.1 mm 鹿児島市 永田川

特徴 体は丸く、縦に平べったい。背鰭と臀鰭は同じ大きさ。体は銀色。オスは体の横に1本の光沢のある細い青色の帯をもつ。メスは背中が茶色っぽく、背鰭の前のほうに黒色の斑紋がひとつある。

分布と生態 平野の浅い池や沼、流れのゆるやかな川や用水路でみられる。鹿児島市内では、永田川でみられ、流れがおだやかな中流の水草がはえた浅いところでよくみられる。

メモ 要注意外来生物に指定されている。もともとすんでいたところは、アジア大陸と台湾。日本へは、1940年代にアジア大陸からその他の淡水魚にまざってもちこまれた。日本に元からいるタナゴ類との交雑などが問題になっている。飼っているタナゴ類は、川に逃がさないようにしよう。(松沼)





■ オイカワ KAUM-I. 6198, オス, 体長 104.5 mm 鹿屋市 高須川



■ オイカワ KAUM-I. 31547, 体長 79.7 mm 鹿児島市 永田川



■ オイカワ KAUM-I. 1062, 体長 26.2 mm 種子島

特徴 体は長い。臀^{しりびれ}鰭はとても大きい。銀色で背中^{はんもん}は黒みがかかる。背^{せびれ}鰭に 3-6 個の小さな黒色の斑紋がある。

分布と生態 川の流れがおだやかなところにすむ。短^{みじか}い川では、カワムツとオイカワがいっしょにすむとき、オイカワはカワムツよりも上^{じょうりゅう}流^{はんしよくき}でみられることが多い。繁殖期（5-8 月）のオスは、体が赤^なみ^がかり、鰭^なが^た黄^{こう}色^{つぎ}っぽくなる。鹿児島市では永田川と甲突川^{ちゅうりゅう}の中流から上流^{じょうりゅう}でみられる。

メモ オイカワとカワムツは、まとめて“ハヤ”とよばれる。鹿児島^{だいひょうてき}島の川で、よくみられる代表的な魚。（松沼）



ヤマトシマドジョウ 川

Cobitis matsubarae



■ ヤマトシマドジョウ KAUM-I. 4872, 体長 85.9 mm 出水市 高尾野川



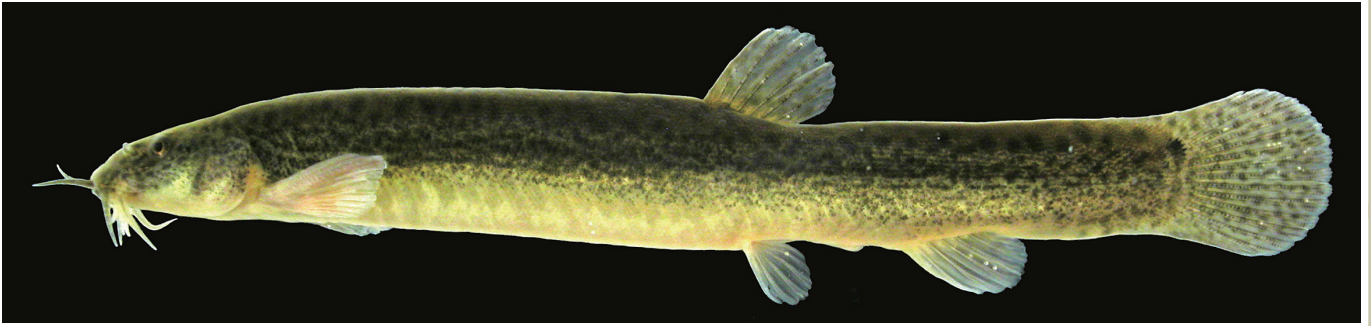
■ ヤマトシマドジョウ KAUM-I. 1816, 体長 69.3 mm 鹿児島市 永田川

特徴 体は細長い。口は下につき、3対のヒゲがある。体は透明感のある白色で、背中ほうすく茶色みがかかる。体に破線になる黒色の縦帯がある。尾鰭に黒色のしま模様がある。

分布と生態 川の中流から下流の砂底にすむ。産卵期は4-5月。鹿児島市では、永田川の支流の水がきれいな砂底でみられる。

メモ ドジョウとよく似ているが、ヤマトシマドジョウは黒色の特徴的な模様をもつことで、目立った模様のないドジョウと見分けられる。カマツカと同じように砂底にもぐって生活する。鹿児島県では、ヤマトシマドジョウがすむ川は限られており、鹿児島市内では永田川でしかみられない。(松沼)





ドジョウ KAUM-I. 6374, 体長 80.4 mm 曾於市 菱田川



ドジョウ KAUM-I. 31543, 体長 72.4 mm 鹿児島市 永田川



ドジョウ KAUM-I. 46648, 体長 52.5 mm 種子島

特徴 体は細長い。口は下につき、5対のヒゲがある。体は茶色で、黒色のまだら模様がある。

分布と生態 平野の池や沼、田んぼ、流れのない川や用水路でみられる。ふだんは泥や砂にもぐっていることが多い。鹿児島市では、甲突川、新川、永田川でみられる。

メモ ヤマトシマドジョウが川の砂地でみられるのに対して、ドジョウは田んぼや、流れがおだやかな川や水路の泥底で多くみられる。田んぼでふつうにみられる魚だが、最近では環境の悪化などにより数が減っている。食用になり、蒲焼や鍋（柳川鍋）にしておいしい。（松沼）





■ ナマズ KAUM-I. 5052, 体長 401.6 mm 菱刈町 川内川



■ ナマズ KAUM-I. 56886, 体長 213.7 mm 鹿児島市 永田川

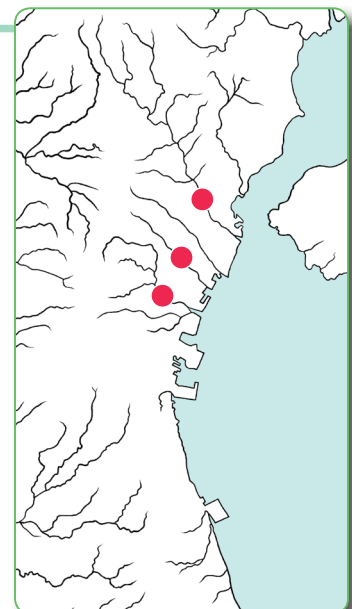


■ ナマズ KAUM-I. 21570, 体長 57.6 mm 鹿児島市 甲突川

特徴 体は長い。背^せ鰭は小さく、臀^{しり}鰭は長い。口に2対の長いヒゲをもつ。体は黒みの強い茶色で、腹は白い。

分布と生態 池や沼、川の流れがおだやかなところにすむ。鹿児島県では、田んぼの間を流れる川の水草がしげったところでよくみられる。肉食性で魚やカエルを食べる。鹿児島市では、甲^{こう}突^つ川、脇^わ田^た川、永^{えい}田^{でん}川でみられる。

メモ 産卵^{さんらん}期の後には、田んぼや川で幼魚^{ようぎょ}（こども）がみられる。ここに掲載された幼魚^{けいさい}（一番下の写真^{しやしん}）は、甲^{こう}突^つ川で7月に採集^{さいしゅう}された。最近では、ナマズがすめるような、田んぼが減っており、ナマズの数も減っている。鹿児島市は、町なかであるにもかかわらずナマズのいる川が多くある。大切にしていこう。（松沼）





■ ゴンズイ KAUM-I. 81908, 体長 208.4 mm 高知県



■ ゴンズイ KAUM-I. 29013, 体長 156.8 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸



■ ゴンズイ KAUM-I. 75620, 体長 48.3 mm 長崎県

特徴 体は長い。背^せ鰭^{びれ}と胸^{むな}鰭^{びれ}に、それぞれ1本の棘^{とげ}をもつ。口に4対の長いヒゲをもつ。体は黒色から茶色で、2本の白色の細い縦帯をもつ。

分布と生態 水深の浅い岩場や藻^も場^ばでみられる。とくに子どもは、群^むれる習性^{しゅうせい}があり、ゴンズイ玉^{だま}とよばれる。産卵^{さんらん}期は6-8月。本州中部から九州の沿岸でみられる。鹿児島市で、は桜島^{はかまごし}の袴腰^{はかまこし}海岸や、稲荷川^{いなり}の河口^{かこう}近く^{こうつき}の海岸^{しん}、甲突川^な、新川^{ながた}、永田川^{かこう}の河口などいたるところでみられる。

メモ 鰭^{ひれ}の棘^{とげ}に毒^{どく}をもつので、注意しよう。刺^さされるとしばらく痛^{いた}む。もし刺^さされたら、40℃くらいのお湯^ゆに刺^さされたところをつけておくと、痛^{いた}みがやわらぐ。(松沼)





■ アユ KAUM-I. 31418, 体長 114.7 mm 鹿児島市 永田川



■ アユ KAUM-I. 6205, 体長 119.5 mm 垂水市 本城川

特徴 体は長く、鱗が細かい。背^{うろこ}の後ろに脂^{せびれ}をもつ（小さな^{あぶらびれ}）。体は銀色で背中は茶色。鱗は黄色^{ひれ}みがる。

分布と生態 川の上流^{じょうりゅう}や中流^{ちゅうりゅう}でみられる。アユは、おもに石についた藻類^{そうるい}を食べる。ほとんどのアユは1年で一生を終える。産卵期^{さんらんき}は秋で、下流^{かりゅう}で産卵したあと、親のアユは死ぬ。子どもは、卵からかえると海にくだり、冬の間は浅い海ですぐす。成長して春になると川にもどってくる。鹿児島市では、甲突川^{こうつき}、脇田川^{わきた}、永田川^{ながた}の中流から下流^{かりゅう}でみられる。

メモ 藻^もを食べるからなのか、キュウリや竹の香^{かお}りがする。とてもおいしい魚で、塩焼きなどにして食べる。（松沼）





■ タウナギ KAUM-I. 55831, 全長 59.6 mm 鹿児島市 甲突川



■ タウナギ KAUM-I. 1095, 全長 428.0 mm 西俣町 神之川

特徴 体は細長く、ウナギ型。鱗がなく、粘液でおおわれる。眼は小さい。胸鰭と腹鰭がない。鰓孔はひとつで腹にある。全身が茶色で、黒っぽいまだら模様がある。

分布と生態 田んぼや池、田んぼとつながる水路や川でみられる。夜行性で昼間は泥にもぐっている。魚だが、空気を口から吸って呼吸する。田んぼなどに巣穴をつくる。オスは、泡でできた巣をつくり、その中で卵を育てる。鹿児島市では、甲突川の下流でとれた。

メモ 見た目は奇妙だが、中国や台湾、東南アジアではよく食べられる。ぶつ切りにして、スープや炒め物にされる。こりこりしておいしい。(松沼)

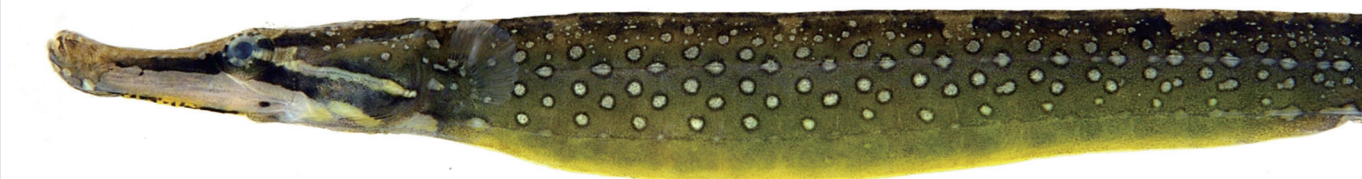


ガンテンイシヨウジ 川

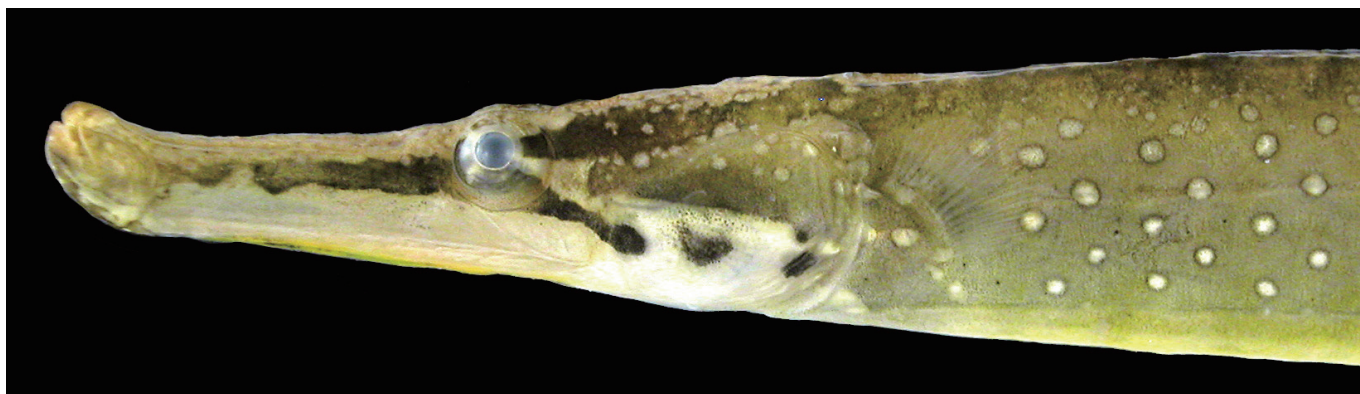
Hippichthys (Parasyngnathus) penicillus



■ ガンテンイシヨウジ KAUM-I. 8829, 全長 107.7 mm 鹿児島市 永田川



■ ガンテンイシヨウジ KAUM-I. 8830, 全長 108.4 mm 鹿児島市 永田川



■ ガンテンイシヨウジ KAUM-I. 6240, 全長 132.1 mm 南大隅町 雄川

特徴 体は細長く、^{ふし}節がある。 ^{しりびれ}臀鰭はとても小さい。 ^{はらびれ}腹鰭はない。 体はうすい茶色で腹は黄色みがかり、小さな白点がたくさんある。

分布と生態 川の下流や河口など、川と海の水がまじるところにすむ。 ^{りゅうぼく}流木など物陰が多いところを好む。 細長い口で、小さな動物を吸い込むようにして食べる。 鹿児島市では、^{こうつき}甲突川と^{ながた}永田川の下流、^{あたご}愛宕川の河口でとれた。

メモ ヨウジウオ類は、海にすむ^{るい}タツノオトシゴと同じ仲間だ。 長い^お尾をくるくると丸めたのがタツノオトシゴ、と想像すると分かりやすい。 ヨウジウオ類は、枝のように見えるので、慎重に探そう。 体が細いので、^{あみめ}網目から抜けて逃げやすいので、つかまえたら気を付けよう。(松沼)





テングヨウジ KAUM-I. 6065, メス, 体長 139.9 mm 鹿児島市 永田川



テングヨウジ KAUM-I. 32668, オス, 体長 154.2 mm 鹿児島市 甲突川



テングヨウジ KAUM-I. 7206, 体長 115.6 mm 奄美大島

特徴 体は細長く、^{ふし}節がある。^{しりびれ}臀鰭はとても小さい。^{はらびれ}腹鰭はない。体は茶色で、頭に眼をとる黒色の細い帯がある。オスは腹の横に1本の赤色の帯がある。

分布と生態 川の下流や河口など、川と海の水がまじるところで多くみられる。細長い口で、小さな動物を^す吸い込むようにして食べる。鹿児島市では甲突川と永田川の下流でとれた。

メモ とても長い口が、テングの鼻にみえるので、テングヨウジと名前がつけられた。正確には、長い部分は^{ふん}吻とよばれ、小さい口が^{はな}吻の先についている。ヨウジウオの仲間は、^{なま}鱗がなく、よく見ると、体に竹のような^{ふし}節がある。泳ぐのは苦手だが、水草や^{りゅうぼく}流木などの近くでじっとしていると、背景にとけこんで見つけるのが難しい。(松沼)



セスジボラ 川 海

Chelon affinis

■ セスジボラ KAUM-I. 1342, 体長 125.2 mm 鹿児島市 永田川



■ セスジボラ KAUM-I. 1339, 体長 132.5 mm 鹿児島市 永田川



■ セスジボラ KAUM-I. 39034, 体長 43.3 mm 種子島

特徴 体は太く長い。背中に1本の筋がある。尾鰭は大きい。体は銀色で、背中・側面は黒色がかかる。胸鰭のつけねに、三日月形の模様がある。

分布と生態 川では川と海の水がまじるところで多くみられる。浅い海でもみられる。日本では北海道南部から琉球列島まで分布する。鹿児島市の川では、永田川の下流と愛宕川の河口で採集された。

メモ 名前のとおり、背中に少しもりあがった1本のスジがあり、さわると分かる。鹿児島市内では、ボラよりも少ないようだ。

ボラ類は、イカを釣るための生き餌として人気がある。イカを釣る人は、まず餌のボラを釣るそうだ。釣具店でも餌用のボラが売られている。(松沼)

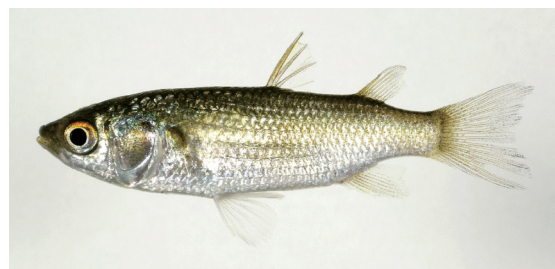




■ コボラ KAUM-I. 7354, 体長 88.1 mm 指宿市 湊川



■ コボラ KAUM-I. 39795, 体長 99.4 mm 与論島



■ コボラ KAUM-I. 39033, 体長 28.8 mm 種子島

特徴 体は太く、体高がやや高い。尾^{おびれ}鰭は大きい。体は銀色で、背中^{むなびれ}は黒色がかかる。胸^{むな}鰭のつけねに三日月形の金色^{きんいろ}の模様がある。

分布と生態 川では、河^か口など川と海の水がまじるところで多くみられる。浅い海でもみられる。群^むれる習性^{しゅうせい}がある。日本では南日本の太平洋沿岸^{えんがん}、大隅諸島^{おおすみしやう}、琉球列島^{りゅうきゅうれつとう}に分布する。鹿児島市の川では、愛宕川^{あたご}の河^か口でとれた。

メモ ボラやセスジボラと似るが、体^{ふと}が太^{みじか}短いのが特徴。九州でとれるコボラはいずれも子どもで、大きな成魚^{せいぎょ}はあまりとれない。

ボラと比べて小さいので、あまり食用にならない。ボラとよく似るが、コボラには胸^{むな}鰭のつけねに青色^{せいろ}の模様がないことで見分けられる。(松沼)





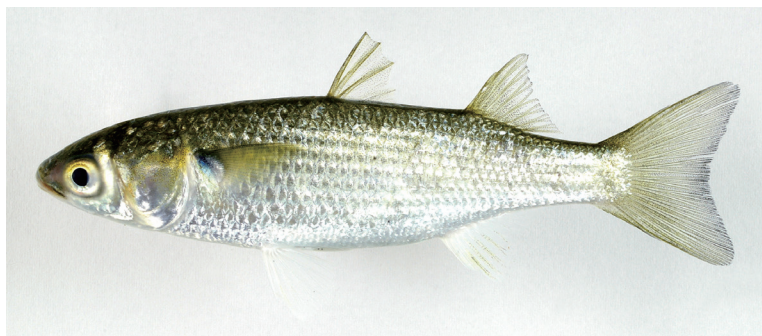
ボラ KAUM-I. 38614, 体長 384.1 mm 鹿児島湾



ボラ KAUM-I. 8412, 体長 333.3 mm 鹿児島市 鈴川



ボラ KAUM-I. 885, 体長 129.0 mm 鹿児島市 永田川



ボラ KAUM-I. 39047, 体長 69.0 mm 種子島

特徴 体はやや長く、体高はあまり高くない。尾^{おびれ}鰭は大きい。体は銀色で、背中^{むなびれ}は黒色がかかる。胸^{こうたく}鰭のつけねに光沢のある青色の小さな斑紋^{はんもん}がある。

分布と生態 川では、河^{かこう}口など川と海の水がまじるところで多くみられる。浅い海でもみられる。ボラの幼魚^{ようぎょ}（子ども）は河^{かこう}口や下流^{かりゅう}で群^{むれ}をつくっているのがよくみられる。成長すると海へ生活の場を移す。大きなボラは定置網^{ていしやうあみ}でとれることもある。日本では北海道から琉球列島^{りゅうきゅうれいとう}まで広く分布^{ぶんぷ}する。鹿児島市の川では、稲荷川^{いなり}、甲突川^{こうつき}、永田川^{ながた}、愛宕川^{あたご}、鈴川^{すず}と多くの川でみられる。

メモ ボラの仲間は眼^{ななま}のまわり^めに特別な筋肉^{とくべつ きんにく}がついており、とても眼^めが良い。そのため、手網^{てあみ}でとるのはむずかしい。おいしい魚。（松沼）





カダヤシ KAUM-I. 6910, オス, 体長 29.0 mm 鹿児島市



カダヤシ KAUM-I. 6911, メス, 体長 39.0 mm 鹿児島市



カダヤシ KAUM-I. 1259, メス, 体長 42.4 mm 鹿児島市

特徴 体はやや長い。背^{せびれ}鰭はひとつで、臀^{しりびれ}鰭とほぼ同じ大きさ。尾^{おびれ}鰭はまるい。メスはオスよりも体高が高く、体長も大きい。オスの臀^{しりびれ}鰭は細長い。体は黄土色で腹は白色。眼の下に黒色の帯が1本ある。

分布と生態 池や沼、水田、川や水路でみられる。卵胎生で繁殖する。メスの胎内^{たいない}で卵がかえり、子どもが産まれる。鹿児島市では、町中^{なご}の水路と永田川から記録されている。

メモ 特定外来生物^{とくていがいらいせいぶつ}に指定されており、飼育や生きたままの持ち運びが法律で禁止^{きんし}されている。原産地^{げんさんち}（もともとすんでいたところ）はアメリカ大陸で、マラリアという病気を広める蚊の幼虫（ボウフラ）をカダヤシに食べさせて駆除^{くじょ}することを目的に、日本にもちこまれた。

メダカと似るが、眼の下に黒色の帯があること（メダカにはない）、背^{せびれ}鰭と臀^{しりびれ}鰭がほぼ同じ大きさであること（メダカでは臀^{しりびれ}鰭のほうが長く大きい）で見分けられる。（松沼）



ミナミメダカ 川

Oryzias latipes



■ ミナミメダカ KAUM-I. 46645, オス, 体長 27.2 mm 種子島



■ ミナミメダカ KAUM-I. 46646, メス, 体長 29.8 mm 種子島



■ ミナミメダカ KAUM-I. 6398, オス, 体長 24.9 mm 大崎町 田原川



■ ミナミメダカ KAUM-I. 1208, メス, 体長 27.6 mm 鹿児島市 永田川



■ ミナミメダカ (色素異常) KAUM-I. 7159, 体長 20.0 mm, 鹿児島市 永田川

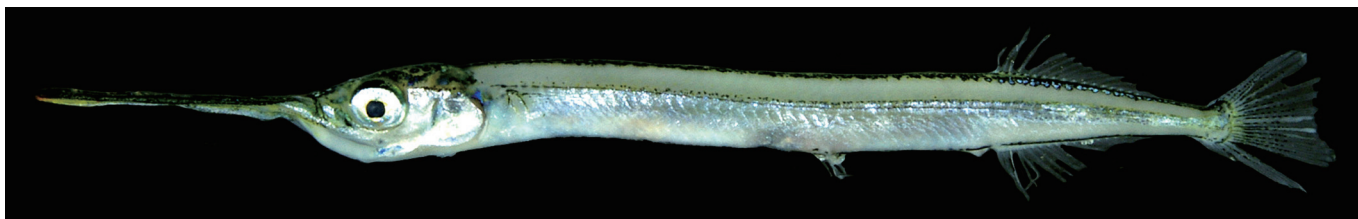
特徴 体はやや長い。背^{せびれ}鰭はひとつで、臀^{しりびれ}鰭よりも小さい。尾^{おびれ}鰭は台形。オスはメスと比べて、背^{せびれ}鰭が大きく切れ込みが深い。体は黄土色で腹は白色。鰭は黄色。地^ち域^{いき}によって色^{こと}が異なる。

分布と生態 平野^{へいや}の川、田んぼ、池や沼にすむ。メスは水草に卵を産みつける。小さな動物や、水面^うに浮かぶ小さな虫などを食べる。鹿児島市では、甲突川^{こうつき}、新川^{しん}、永田川^{ながた}の中流から下流^{ちゅうりゅう}の流れがおだやかなところで見られる。

メモ 日本のメダカは1種と考えられていたが、最近の研究で2種に分けられ名前もかわった。ミナミメダカは南日本^{ぶんぶ}に分布し、本州中部から琉球列島^{りゅうきゅうれいとう}までみられる。一方、キタノメダカは、本州北部^{ぶんぶ}に分布する。鹿児島県には、遺伝^{いでんてき}的な特徴^{とくちょう}が異なる薩摩型^{さつまたがた}、大隅型^{おおすみがた}、琉球型^{りゅうきゅうがた}の3つの個体群^{こたいぐん}がいる。

環境^{かんきよう}の変化により、全国的に数が減っており、絶滅^{ぜつめつ}が危惧^{きぐ}されている。(松沼)

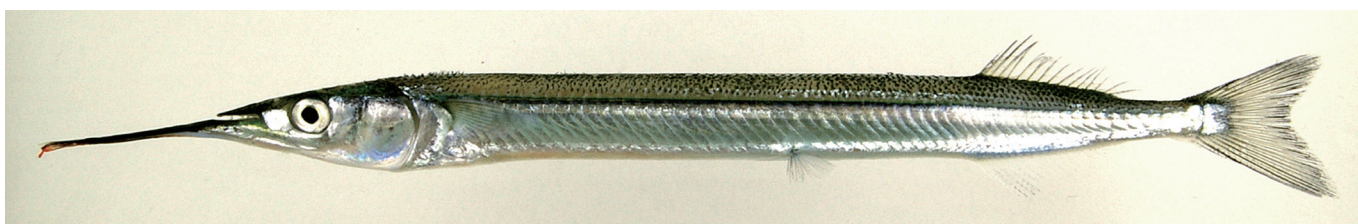




■ サヨリ KAUM-I. 38008, 体長 30.4 mm 鹿児島市 稲荷川



■ サヨリ KAUM-I. 38009, 体長 23.3 mm 鹿児島市 稲荷川



■ サヨリ KAUM-I. 21156, 体長 138.2 mm 鹿児島湾



■ サヨリ KAUM-I. 5423, 体長 172.5 mm 鹿児島湾

特徴 体は細長い。下顎^{したあご}が長く突き出て、とがる。体は銀白色で背中^{うろこ}は緑色がかった灰色。下顎^{したあご}の先は赤色。鱗は、はがれやすい。大きいもので 40 cm くらいになる。

分布と生態 岸に近い浅い海でみられる。子どもは、河口^{かこう}でもみられる。日本では、北海道から九州^{えんがん}の沿岸でみられる。鹿児島市の川では、5 月に稲荷川の河口^{いなり かこう}で体長 3 cm ほどの子どもが群^むれているのが観察^{かんさつ}された（上 2 枚の写真）。

メモ ^{じょうひん}上品な白身で、塩焼きなどにして食べられるおいしい魚。
^{ていちあみ}定置網でよくとれる。（松沼）





■ カサゴ KAUM-I. 1007, 体長 90.0 mm 南さつま市 笠沙



■ カサゴ KAUM-I. 27643, 体長 106.5 mm 鹿児島湾

特徴 体は太く、頭が大きい。頭に棘^{とげ}がたくさんある。体は茶色から赤色までさまざま、すんでいる場所によってかわる。30 cm くらいになる。

分布と生態 日本中でみられる。ふつう浅い海にすむ。あまり泳ぎまわらず、底についていることが多い。肉食性^{にくしよくせい}で、小さな魚などを食べる。卵でなく小さな子どもを産む（卵胎生^{らんたいせい}という）。鹿児島県では九州地方と種子島・屋久島^{たねがしま やくしま}地方でみられ、漁港^{ぎょこう}などでよく釣れる。稲荷川^{いなり}の横の海岸^{さいしゅう}で採集された。

メモ 鹿児島県では「アラカブ」とよばれ、親^{した}しまれる。簡単に釣れ、おいしい。頭や鰓蓋^{えらふた}にするどい棘^{とげ}があるので、つかまえたら気を付けよう。（松沼）





■ サツマカサゴ KAUM-I. 22510, 体長 150.7 mm 鹿児島湾



■ サツマカサゴ KAUM-I. 19083, 体長 60.6 mm 稲荷川河口横の海岸

特徴 体は太く、頭が大きい。頭^{とげ}に棘^{むなびれ}がたくさんある。大きい胸鰭^{うらがわ}の裏側には黄色、オレンジ、黒色の鮮やかな模様がある。体は茶色から赤色までさまざまで、すんでいる場所によってかわる。

分布と生態 日本では千葉県以南の太平洋岸と琉球列島^{ぶんぶ}に分布する。河口^{かこう}や沿岸^{えんがん}の岩場の間にある砂や泥^{かいでい}の海底に好んですむ。あまり泳ぎまわらず、海底でじっとしていることが多い。肉食性で、小さな魚やエビ・カニなどを食べる。威嚇時に胸鰭^{かいでい}を広げて裏側の鮮やかな模様^{いなか}を敵にみせる。ゼリー状の透明な塊^{むなびれ}につつまれた卵^{うらがわ}を産む。稲荷川^{あざ}の横の海岸^{いなり}で採集された。

メモ サツマカサゴの「サツマ」は鹿児島のこと。おいしいが、漁獲量は少ない。背鰭^{ぎょかくりょう}や臀鰭^{せびれ}の棘^{しりびれ}に毒^{とげ}があるので、つかまえたら要注意^{どく}。(本村)





■ トカゲゴチ KAUM-I. 29002, 体長 200.7 mm 鹿児島市稲荷川河口横の海岸



■ トカゲゴチ KAUM-I. 352, 体長 240.7 mm 南さつま市 笠沙

特徴 体は細長く、平たい。頭も平たく、たくさんの棘^{とげ}がある。せびれ^{せびれ}背鰭は2つ。茶色で、腹は白っぽい。胸鰭^{むなびれ}と尾鰭^{おびれ}に黒点がたくさんある。20 cm ほどになる。

分布と生態 浅い海の砂地にすむ。エビやカニ類^{るい}、小さな魚を食べる。鹿児島県では九州地方の海で、ごくふつうにみられる。稲荷川横の海岸^{いなり}で採集された。

メモ 鹿児島県では、定置網や底曳き網などで漁獲され、食用になる。コチ類^{るい}は、オスからメスへ性転換^{せいてんかん}することが知られている。(福井)





■ マゴチ KAUM-I. 6693, 体長 335.5 mm いちき串木野市



■ マゴチ KAUM-I. 55368, 体長 266.1 mm 鹿児島市 甲突川



■ マゴチ KAUM-I. 30680, 体長 206.3 mm 宮崎県

特徴 体は細長く、平たい。背^{せびれ}鰭は2つ。体は茶色で、腹は白っぽい。尾^{おびれ}鰭は白色で、黒い模様がある。50 cm ほどになる。

分布と生態 浅い海の砂地にすむ。小さなものは河^{かこう}口でもよくみられる。動物食で、エビやカ^{るい}ニ類、魚を食べる。鹿児島県では九州地方と種子島^{たねがしま}の海でみられる。種子島よりも南の地方には分布しない。鹿児島市の川では、甲突川^{こうつき}の河^{かこう}口で釣^さりで採集された。

メモ 釣り魚として人気がある。おいしい白身魚。眼^めの後ろに鋭い^{すど}棘^{とげ}があるので、つかむ時には注^{ちゅう}意^いしよう。(福井)





スズキ KAUM-I. 55974, 体長 313.9 mm 鹿児島市 甲突川

特徴 体はやや細身。口はとがる。^{せびれ}背鰭は2つある。体は銀色で背中では黒色がかかる。

分布と生態 岸に近い浅い海でみられる。若いスズキは川の河口や^{かりゅう}下流でみられることもある。80 cm 近くまで成長する。大きなものは海で釣りや^{ていあみ}定置網でとれる。日本では北海道から九州の沿岸でみられる。鹿児島市の川では、^{こうつき}甲突川と^{あたご}愛宕川の^{かりゅう}下流で記録された。

メモ おいしい魚。ひきが強いので釣り魚としても親しまれる。(松沼^{した})





■ ヒラスズキ KAUM-I. 58161, 体長 288.4 mm 鹿児島市 永田川



■ ヒラスズキ KAUM-I. 39128, 体長 97.6 mm 種子島

特徴 体はやや太い。口はとがる。^{せびれ}背鰭は2つある。体は銀色で背中
中は黒色がかかる。

分布と生態 岸に近い浅い海にすみ、波の荒い^{あら}ところが多くみられ
る。若いヒラスズキは川と海の水がまじる河口^{かこう}や下流^{かりゅう}、完全に淡水
のところでもみられることもある。80 cm 近くまで成長する。南日本の
沿岸^{えんがん}でみられる。鹿児島市の川では^{ながた}永田川の河口^{かこう}で記録された。

メモ おいしい魚で、釣り魚としても人気がある。スズキとよく似
ているが、ヒラスズキはスズキよりも体が太く、とくに^{びへい}尾柄（体のう
ち^{しりびれ}臀鰭^{おびれ}と^{とくちよう}尾鰭^{びへい}の間の部分）が太く短いことが特徴（スズキでは細く長
い）。（松沼）





■ ブルーギル KAUM-I. 19269, 体長 188.9 mm 鹿児島市 松元ダム湖



■ ブルーギル KAUM-I. 56883, 体長 121.7 mm 鹿児島市 永田川

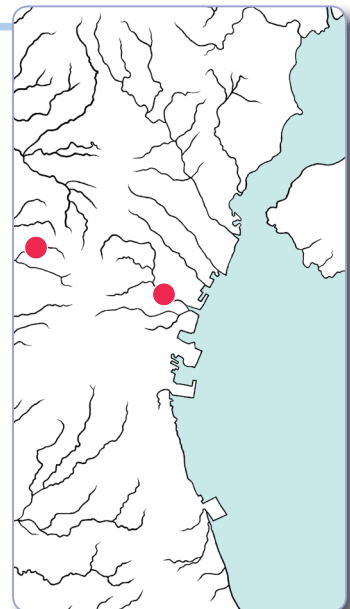


■ ブルーギル KAUM-I. 28028, 体長 81.3 mm 鹿児島市 松元ダム湖

特徴 体は横からみて丸い。鱗の棘は強い。尾鰭はハート形。体は黒みがかった緑色で、鰓蓋に黒色の模様が一つある。

分布と生態 ダム湖や池、流れのおだやかな川でみられ、なんでも食べる。20 cm 近くまで成長する。成長するにつれて体の高さが高くなり、横からみて丸くなっていく。原産地(もともとすんでいたところ)は中央アメリカで、日本にもちこまれたものが全国でみられる。鹿児島市内では永田川と松元ダム湖でたくさんみられる。松元ダム湖から流れ出る永吉川の上流でも記録されている。

メモ 特定外来生物に指定されており、飼うことや、生きたまま持ち運ぶことが法律で禁止されている。ブルーギルがとれても、生かしたまま家に持ち帰ったり、ほかの川に放すのはやめよう。(松沼)





オオクチバス KAUM-I. 39334, 体長 398.0 mm 鹿児島市 松元ダム湖



オオクチバス KAUM-I. 39333, 体長 183.4 mm 鹿児島市 松元ダム湖

特徴 体はやや長く太い。鱗の棘は強い。尾鰭はハート形。口は大きく、上あごの後縁は眼をこえる。頭と体は暗い緑色で、腹は白っぽい。

分布と生態 湖や池、流れのゆるやかな川でみられ、なんでも食べる。最大で体長 50 cm をこえる。原産地は中央アメリカで、日本各地でみられる。鹿児島市内では松元ダム湖から記録されている。

メモ 法律で特定外来生物に指定されている。飼ったり、持ち運んだりするのはやめよう。釣り魚として利用するために日本にもちこまれ、全国各地の湖や池に放流された。しかし、もともと日本にすんでいた生きものに悪い影響を与えることがわかったため、現在では駆除がすすめられている。人間の都合で悪者あつかいされているが、おいしく食べられる魚。(松沼)



クロイシモチ 海

Apogonichthyoides niger

■ クロイシモチ KAUM-I. 29009, 体長 63.2 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸



■ クロイシモチ KAUM-I. 47242, 体長 57.9 mm 鹿児島湾



■ クロイシモチ KAUM-I. 23754, 体長 51.2 mm 鹿児島湾

特徴 体はやや平たく、高い。体全体が黒っぽく、2本の太い横縞をもつ。尾鰭は丸くて透明。

分布と生態 漁港や内湾などおだやかで浅い海でみられ、砂地や泥地を好む。鹿児島県では、浅い海でふつうにみられる。稲荷川横の海岸で採集された。

メモ 単独で生活することが多いが、夏の繁殖期になると結婚相手を求めて活発になる。クロイシモチなどのテンジクダイの仲間は、オスが口の中で子育てをする（口内保育）をすることが知られている。小さいので食用にはならない。（福井）





ギンガメアジ KAUM-I. 50174, 体長 75.2 mm 種子島



ギンガメアジ KAUM-I. 39815, 体長 93.7 mm 与論島



ギンガメアジ KAUM-I. 611, 体長 203.0 mm 南さつま市笠沙

特徴 体は高い。幼魚は卵型だが、成長するとやや細長くなる。体は銀色で、鰓蓋の上のほうに小さな黒い点を持つ。

分布と生態 浅い海にすみ、河口にもよくあらわれる。鹿児島県では、浅い海で、ふつうにみられる魚。愛宕川の河口で採集された。

メモ 市場では、ほかのギンガメアジ類とあわせて「メッキ」と呼ばれる。定置網や釣りでとれる。白身でおいしい魚。幼魚の体の色は金色だが、成長するにしたがって銀色に変化する。(福井)



クロホシフエダイ 川海

Lutjanus fulviflamma

■ クロホシフエダイ KAUM-I. 32490, 体長 28.3 mm 鹿児島市 永田川



■ クロホシフエダイ KAUM-I. 32491, 体長 46.4 mm 鹿児島市 永田川



■ クロホシフエダイ KAUM-I. 6895, 体長 94.8 mm 南さつま市 笠沙

特徴 体はやや高く、^{ひれ とげ} 鰭の棘は強い。口は大きく、歯はするどくとがる。頭と体は灰色がかり、体に約4本の黄土色の帯があり、中央に黒い模様がある。^{はらびれ しりびれ} 腹鰭と臀鰭は黄色。子どもは白色で、体の帯が黒色。^{せいぎょ} 成魚よりも背鰭棘と腹鰭がやや長い。

分布と生態 ^{えんがん} 沿岸の岩場やサンゴ礁にすむ。^{しょう} 子どもは、河口でもみられる。ここに掲載した写真の子どもは、^{ながた} 永田川の河口で9月に^{かいこう} 採集された。成長すると30 cmほどになる。西太平洋に^{ぶんぶ} 分布し、国内では南日本の太平洋岸でみられる。鹿児島市の川では、^{ながた} 永田川の河口から^{かいこう} 幼魚が記録された。

メ 食用になり、^{ていちはみ} 定置網などでとれる。(松沼)



海川 セダカダイミョウサギ

Gerres akazakii



セダカダイミョウサギ KAUM-I. 1265, 体長 70.8 mm 鹿児島市 稲荷川



セダカダイミョウサギ KAUM-I. 26550, 体長 136.0 mm 南さつま市 笠沙

特徴 体はやや高い。口は小さくとがる。眼は大きい。体は銀色で、体に不明瞭な暗色の縦縞が多数ある。腹鰭と臀鰭はあざやかな黄色。

分布と生態 沿岸の砂底にすみ、河口でもよくみられる。静岡県よりも南の太平洋岸から種子島まで分布する。夜に休むときや、敵におそわれると砂にもぐってかくれる。鹿児島市の川では、稲荷川と新川の河口で幼魚（子ども）がとれた。

メモ 定置網などでとれる。クロサギとよく似るが、セダカダイミョウサギは、体が高いこと（ずんぐりしている）、体に多数の細い横縞があること、腹鰭と臀鰭が黄色であることから見分けられる。（松沼）





■ クロサギ KAUM-I. 5508, 体長 143.9 mm 鹿児島市 永田川



■ クロサギ KAUM-I. 26626, 体長 178.7 mm 鹿児島湾

特徴 体はそれほど高くない。口は小さくとがる。眼は大きい。頭と体は銀色。

分布と生態 沿岸の砂底にすみ、河口でもよくみられる。南日本の沿岸でみられ、分布の南限は大隅諸島。夜に休むときや、敵におそわれると砂にもぐってかくれる。鹿児島市の川では、稲荷川、永田川、新川、八幡川など多くの川の河口でよくみられる。

メモ 大型のクロサギは定置網などでとれる。河口などでもよく釣れる。鹿児島県では“アメウオ”とよばれスーパーで売られている。(松沼)





キチヌ KAUM-I. 5056, 体長 104.8 mm 鹿児島市 永田川



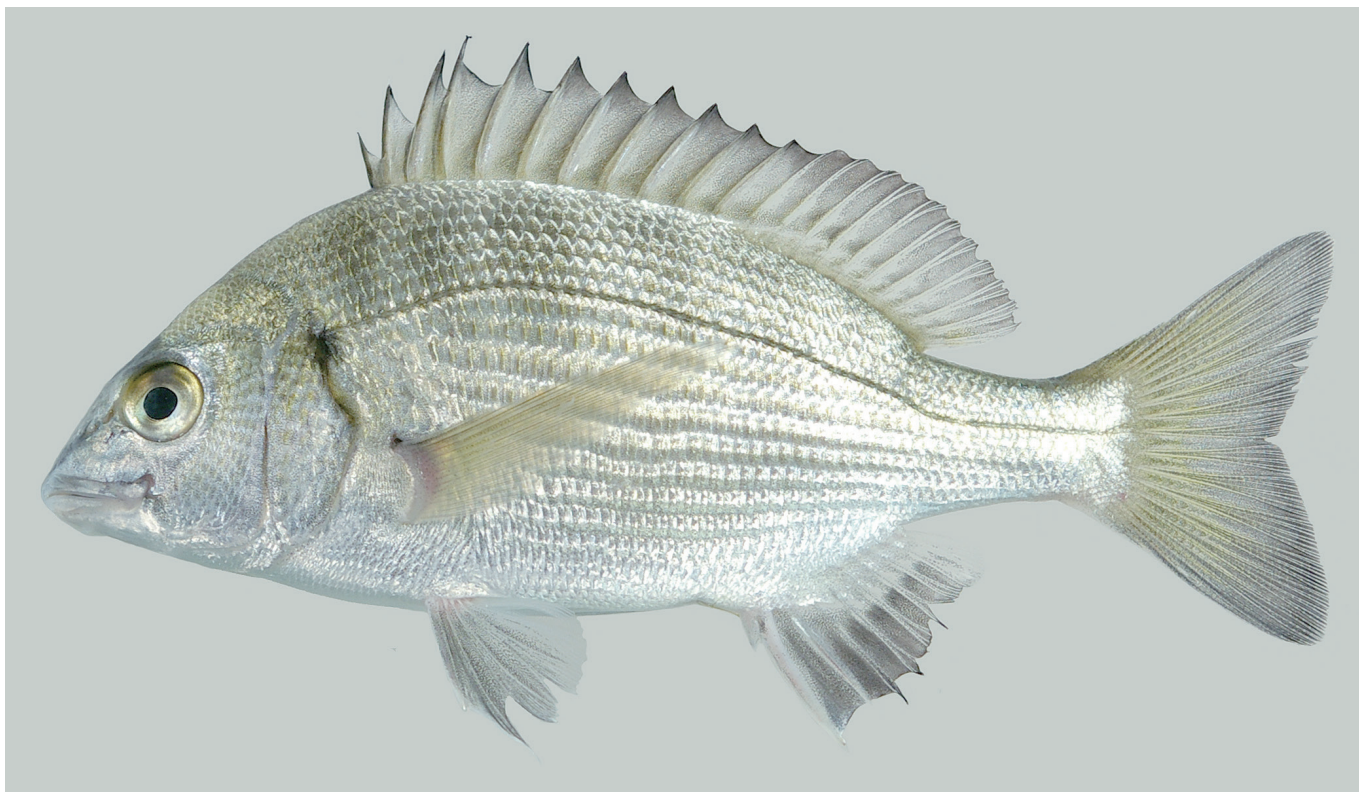
キチヌ KAUM-I. 54594, 体長 315.4 mm 鹿児島湾

特徴 体は高い。鰭の棘は太く強い。体は銀白色で、腹鰭、臀鰭、尾鰭の下のはうは、あざやかな黄色。背鰭は黒みがかかる。

分布と生態 岸に近い、浅い海の砂地や岩場にすみ、河口でもよくみられる。国内では南日本に分布する。雑食性でなんでも食べる。鹿児島市の川では、永田川の河口で採集された。鹿児島湾の沿岸でもみられる。

メモ 大型のキチヌは定置網などでとれる。釣りでもよくとれる。クロダイと似るが、キチヌは、腹鰭、臀鰭、尾鰭の下のはうがあざやかな黄色であることで見分けられる。(松沼)





■ クロダイ KAUM-I. 5016, 体長 90.8 mm 鹿児島市 永田川



■ クロダイ KAUM-I. 33681, 体長 192.2 mm 長島町

特徴 体は高い。鰭の棘は太く強い。幼魚(子ども)の体は銀白色で、大きくなると黒みが強くなる。鰭は黒みがかかる。

分布と生態 岸に近い浅い海の砂地や岩場、藻場にすみ、幼魚(子ども)は河口でもよくみられる。国内では琉球列島をのぞき北海道よりも南の地方に分布する。雑食性でなんでも食べる。鹿児島市の川では、稲荷川と永田川の河口で採集された。鹿児島湾の沿岸でも、よくみられる。

メモ 釣り魚として親しまれる。定置網などでもとれ、食用になる。キチヌよりやや細身。(松沼)





シロギス KAUM-I. 5057, 体長 171.4 mm 鹿児島市 永田川



シロギス KAUM-I. 30172, 体長 201.4 mm 内之浦湾

特徴 体は細長い。口は小さくよくとがるキツネ顔。背^{せびれ}鰭は2つ。第2背^{しりびれ}鰭と臀^{うろこ}鰭はほぼ同じ長さ。鱗はうすくはがれやすい。体は白色で目立ったもようがない。生きているときは銀^{こうたく}色の光沢がある。

分布と生態 河口^{かこう}や砂浜^{えんがん}など沿岸の砂底でよくみられ、危険を感じると砂にもぐることがある。20 cm ほどまで成長する。日本では北海道から九州でみられる。鹿児島市の川では、稲荷^{いなり}川、永田^{ながた}川、愛宕^{あたご}川の河口^{かこう}で採集された。

メモ 食用になり、天ぷらや塩焼きなどでおいしい魚。釣り魚としても人気がある。キスの仲間は、特別な鰾^{なかも}をもち、水の中^{とくべつ うきぶくろ}の振動^{しんどう}を敏感^{びんかん}に感じとることができる。そのため、釣るのが難^{むずか}しく、ふつうキスを釣るときは岸から遠くまで針を投げて釣る。(松沼)



ヨメヒメジ

Upeneus tragula

海



ヨメヒメジ KAUM-I. 22542, 体長 194.9 mm 鹿児島湾



ヨメヒメジ KAUM-I. 1269, 体長 83.9 mm 鹿児島市 稲荷川

特徴 体はやや細長い。口は下につき、^{したあご}下顎に1対の長いヒゲがある。^{ついで}背鰭は2つ。第2背鰭と臀鰭は短い。尾鰭は深くきれこむ。頭と体の背中は茶色、腹はくすんだ赤色で、体に多数の黒色点がある。^{おびれ}尾鰭には縞模様がある。ヒゲは黄色。魚の状態によって体色が薄くなったり、もようが消えたりする。

分布と生態 海の浅いところの砂底でよくみられる。^{かこう}河口でもみられる。ゴカイや小さなエビ・カニ類などを食べる。^{ふんぶ}南日本に広く分布する。鹿児島市の川では、^{いなり}稲荷川と^{あたご}愛宕川の^{かこう}河口でとれた。

メモ ヒメジの仲間は、^{なかま}下顎についたヒゲで味を感じることができる。このヒゲをつかって、^{かいてい}海底にひそむ動物をさがして食べる。(松沼)



外川 ナイルティラピア

Oreochromis niloticus

■ ナイルティラピア KAUM-I. 56884, 体長 109.6 mm 鹿児島市 永田川



■ ナイルティラピア KAUM-I. 56885, 体長 93.3 mm 鹿児島市 永田川

特徴 体高が高く、体形はタイ型。鱗の棘は強い。背鰭は1つ。体は黒みがかった緑色。背鰭、臀鰭、尾鰭に黒色のしま模様がある。鰓蓋に1個の黒色の斑紋がある。

分布と生態 高い水温を好むが、低水温（10℃ほど）でも生きられる。川の流れがおだやかなところや湖沼にすむ。高い塩分にも強く、河口近くの汽水域（海水がまじるところ）にもすめる。外来種で、原産地はアフリカ大陸。現在では南日本の各地でみられ、鹿児島市では永田川でみられる。鹿児島県では永田川のほかに、指宿市の川や池田湖などの湖沼、島に広く定着している。

メモ 食用になり、おいしい魚。かつては養殖され、“チカダイ”や“イズミダイ”の名前でマダイの代用品として売られていた。現在では要注意外来生物に指定されている。（松沼）

